

# ここが聞きたい!! 7名が登壇

## 旧日良居中学校の校舎の利用計画を問う

杉山 藤雄 議員

**問** 旧建築基準法によってつくられた公共施設（昭和56年以前の建築）の診断結果の報告とあわせて旧日良居中学校の校舎の利用計画について具体的な説明を求める。

**答** 平成23年度において耐震診断を実施したのは6施設で久美保育所、日良居保育所、棕野公民館はいずれも耐震性があり、日良居中学校については文科省の基準には下回っているが国土交通省の基準には上回っており、学校以外の通常の使用には支障がないという診断結果である。

久賀総合センターは図書館等の平屋部分には耐震性はあるが、二階立て部分の耐震性が不足するとの一次の診断結果がでた。今後は



旧日良居中学校

2次診断を実施し検討する。橘庁舎については耐震性は無く（1次診断でEクラス）2次診断を行うまでもなく改築が必要であると判断している。橘総合支所のみが入る庁舎を現橘庁舎用地において改築し、現在橘庁舎で執務している健康増進課及び介護保険課を緊急避難的に旧日良居中学校校舎に移転する方向で検討している。

## 視察報告

### 地域再生の魁 “やねだん”

（鹿児島県鹿屋市柳谷）

平成24年8月7・8日

補助金も観光資源も産業もない典型的な、過疎高齢化の進んだ集落が行政に頼らず自分達の力だけで再生を果たした集落、人口313人、ボーナスが出る集落（やねだん）として有名になった。地域再生のキーワードは、感謝の人脈は絶対繋がって行く。手法は「感動」、感動があれば人は動き地域再生の力になる。次に、地域が自立するには財源が必要となる。やねだんでは自主財源を確保するため、休耕地を借り受けてサツマイモを植え付け、地元の酒造会社でオリジナルの焼酎「やねだん」を製造。活動を開始し10年後には余剰金が500万円になり、全員に1万円を配った。今も、85歳以上の高齢者20人に

は毎年1万円のボーナスを出している。

財源は焼酎販売以外に、農産加工品などの販売、視察を受け入れた時の視察料など年間300万円を超える。余剰金は芸術家を迎えるための空き家改修、高齢者宅への緊急通報器の設置、風力と太陽光発電施設の整備、健康遊具の設置など多方面に活用されている。

このような活動は、若者のUターンにも結び付き、自治会の人口も300人を維持している。

